

2025年3月期第2四半期 決算説明資料

2024年11月
日本ケミコン株式会社

東証プライム 証券コード:6997

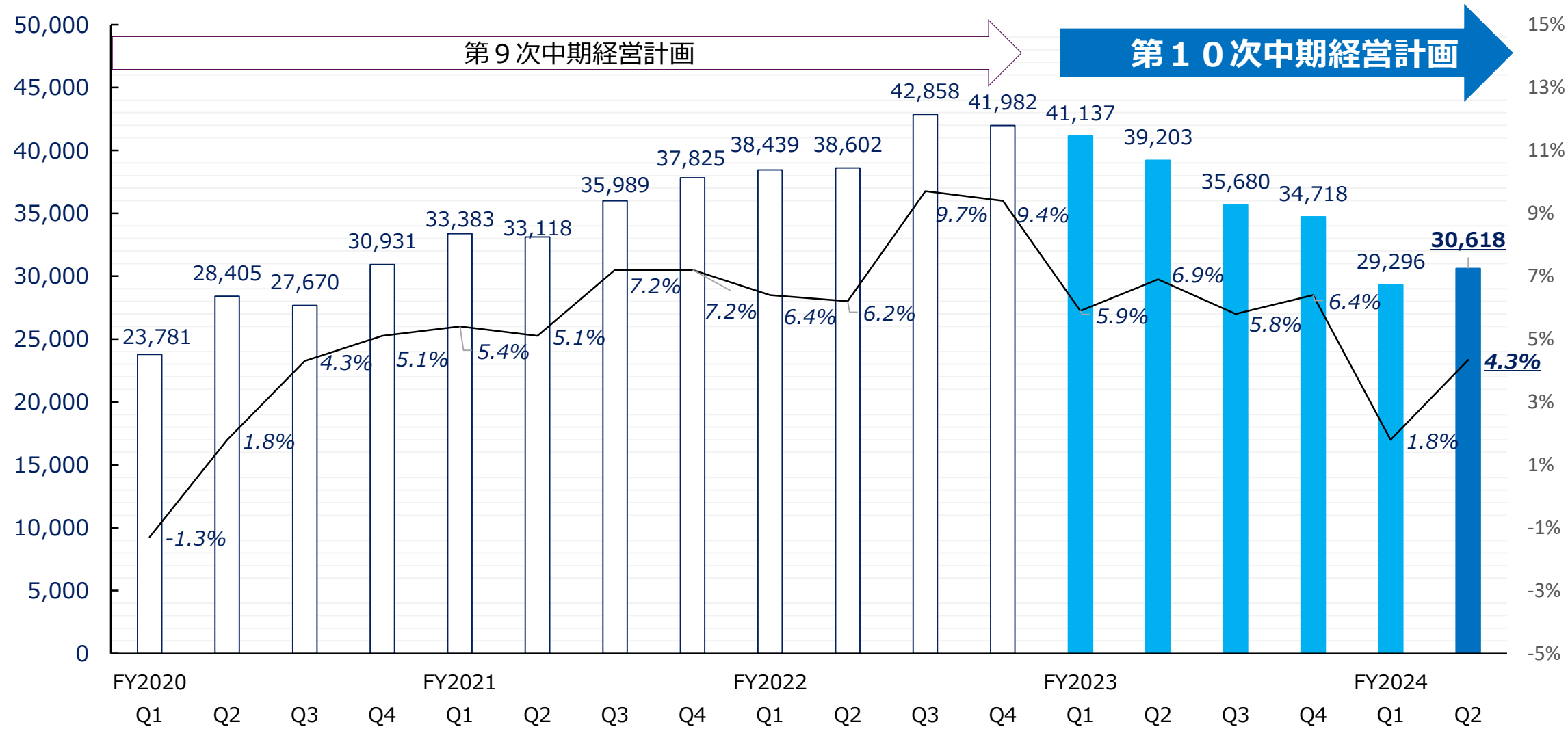
四半期別業績推移

売上高

単位：百万円

営業利益率(%)

売上高・営業利益率推移



2025年3月期第2四半期 連結業績概要

ICT市場以外の市場の需要低迷が続き減収。粗利、操業度の悪化により減益

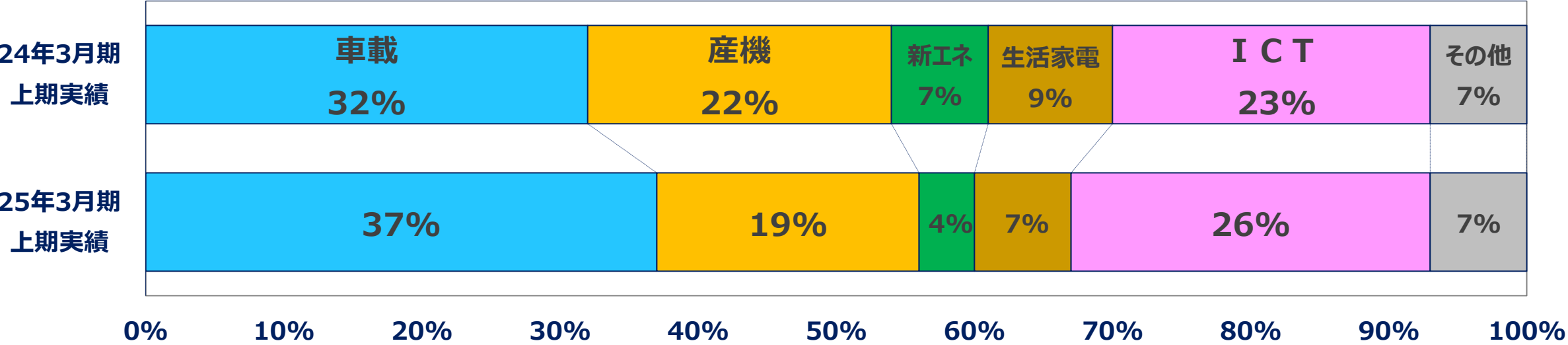
単位：百万円	24年3月期上期実績	25年3月期上期実績	増減	増減率
売上高	80,341	59,914	-20,426	-25.4%
営業利益	5,123	1,850	-3,273	-63.9%
営業利益率	6.4%	3.1%	-3,3pt	-
当期純利益	-22,781	78	+22,859	-
ROA	-14.0%	0.0%	+14.0pt	-
ROE	-56.5%	0.1%	+56.6pt	-
設備投資	5,332	5,218	-114	-2.1%
減価償却費	3,095	3,285	+189	+6.1%
研究開発費	2,259	2,056	-203	-9.0%
為替レート 対US\$（円）	141.00	152.63	8.2%円安	
対Euro（円）	153.39	165.95	8.2%円安	

2025年3月期第2四半期 連結業績のポイント

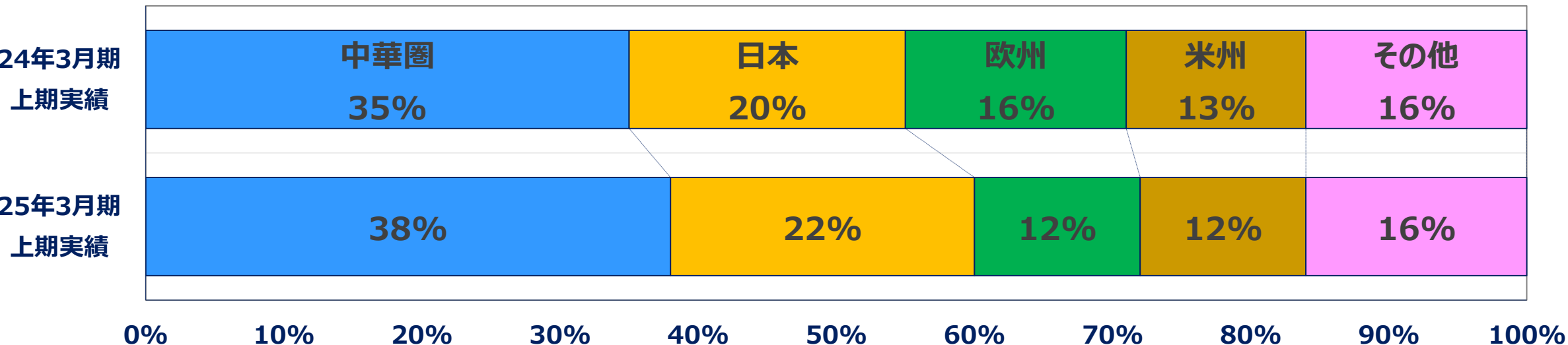
	上期のポイント
売上高	・売上高
599億円 前年同期比 ▲25.4%	I C T市場はサーバーを中心に受注好調で当初予算を上回ったが、中国経済の不振などにより産機市場の回復が遅れ、また車載市場での一時的な在庫調整により、売上高は当初計画を下回った
営業利益	・営業利益
18億円 前年同期比 ▲63.9%	売上高の減少に伴い、生産高も減少したことで操業度損が発生し、粗利率が低下した
親会社株主に帰属する 当期純利益	円安の為替効果や固定費の圧縮を進めたが、営業利益は当初計画を下回った
0.8億円	

2025年3月期第2四半期 市場別・地域別売上高推移

■ 市場別売上構成比推移



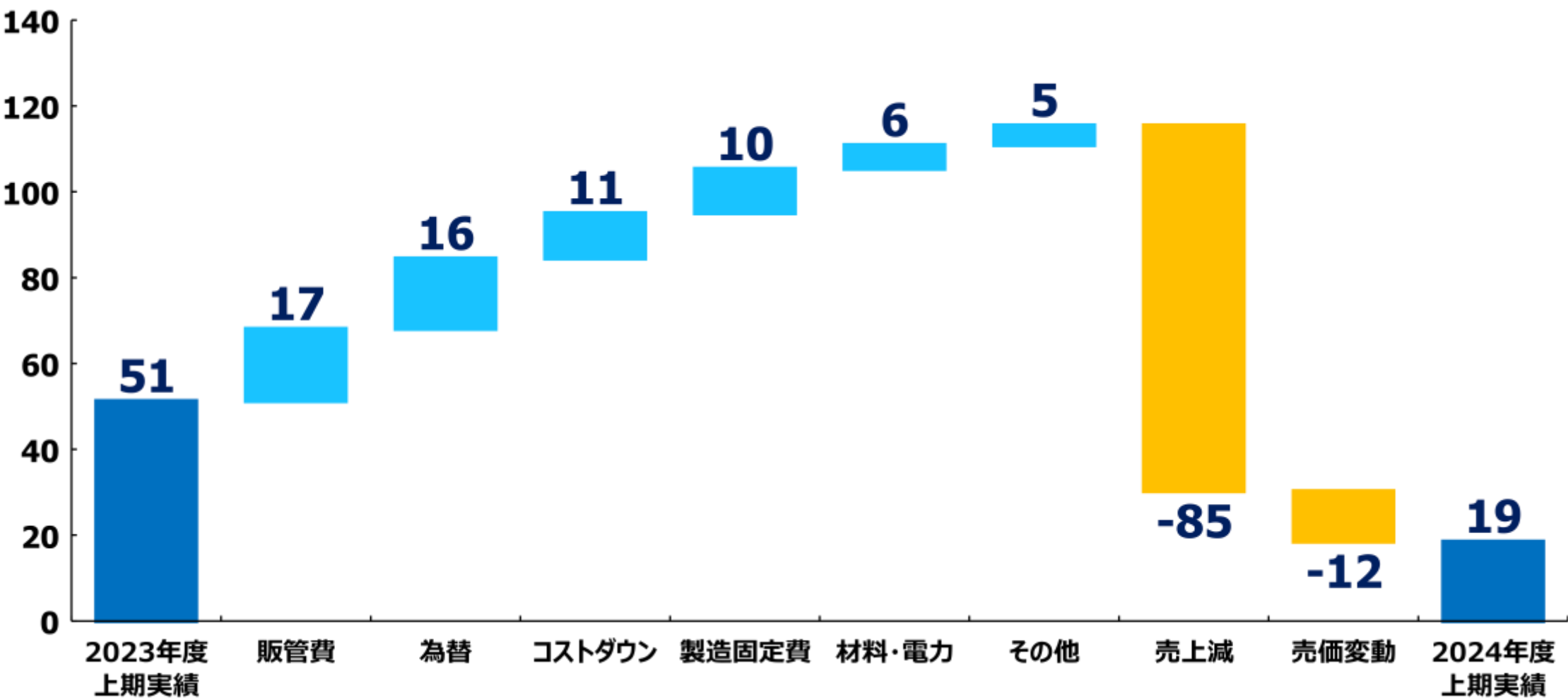
■ 地域別売上構成比推移



2025年3月期第2四半期 営業利益増減内容（前年同期比）

産機市場をはじめ各市場の需要回復遅れによる売上減少により減益となった

単位：億円



2025年3月期通期 連結業績予想










産機市場の回復時期の遅れと車載市場の足踏みによる売上未達で減収減益見通し

単位：百万円	24年3月期 上期実績	24年3月期 下期実績	24年3月期 通期実績	25年3月期 上期実績	25年3月期 下期予想	25年3月期 通期実績予想	前年比 増減率
売上高	80,341	70,398	150,740	59,914	73,086	133,000	-11.8%
営業利益	5,123	4,298	9,422	1,850	5,349	7,200	-23.6%
営業利益率	6.4%	6.1%	6.3%	3.1%	7.3%	5.4%	-
当期純利益	-22,781	1,490	-21,291	78	3,921	4,000	-
ROA	-14.0%	-	-12.7%	0.0%	-	2.4%	-
ROE	-56.5%	-	-41.2%	0.1%	-	7.1%	-
設備投資	5,332	5,862	11,195	5,218	3,282	8,500	-24.1%
減価償却費	3,095	3,243	6,339	3,285	3,115	6,400	+1.0%
研究開発費	2,259	2,229	4,489	2,056	2,144	4,200	-6.5%
為替レート 対US\$（円）	141.00	148.25	144.62	152.63	145.00	148.82	2.9%円安
対Euro（円）	153.39	160.21	156.80	165.95	160.00	162.97	3.9%円安

2025年3月期下期 連結業績予想のポイント

下期のポイント	
売上高	・売上高
730億円 上期比+22.0%	・車載市場は、一時的な在庫調整があったものの、ハイブリッドコンデンサ需要は底堅く、下期もフル生産を継続
営業利益	・産機市場は、3Q後半には在庫調整が終息し、4Qから需要回復の見通し
53億円 上期比+189.2%	・ICT市場は、1Qから北米のデータセンター向けサーバー需要が好調で、3Q以降もさらに伸長の見通し
親会社株主に帰属する 当期純利益	・営業利益
39億円	・売上高の増加に伴い、生産高も増加し、操業度益が改善。ハイブリッドコンデンサの伸びなど、製品ミックスが改善し、粗利率もさらに良化し、大幅増益の見通し

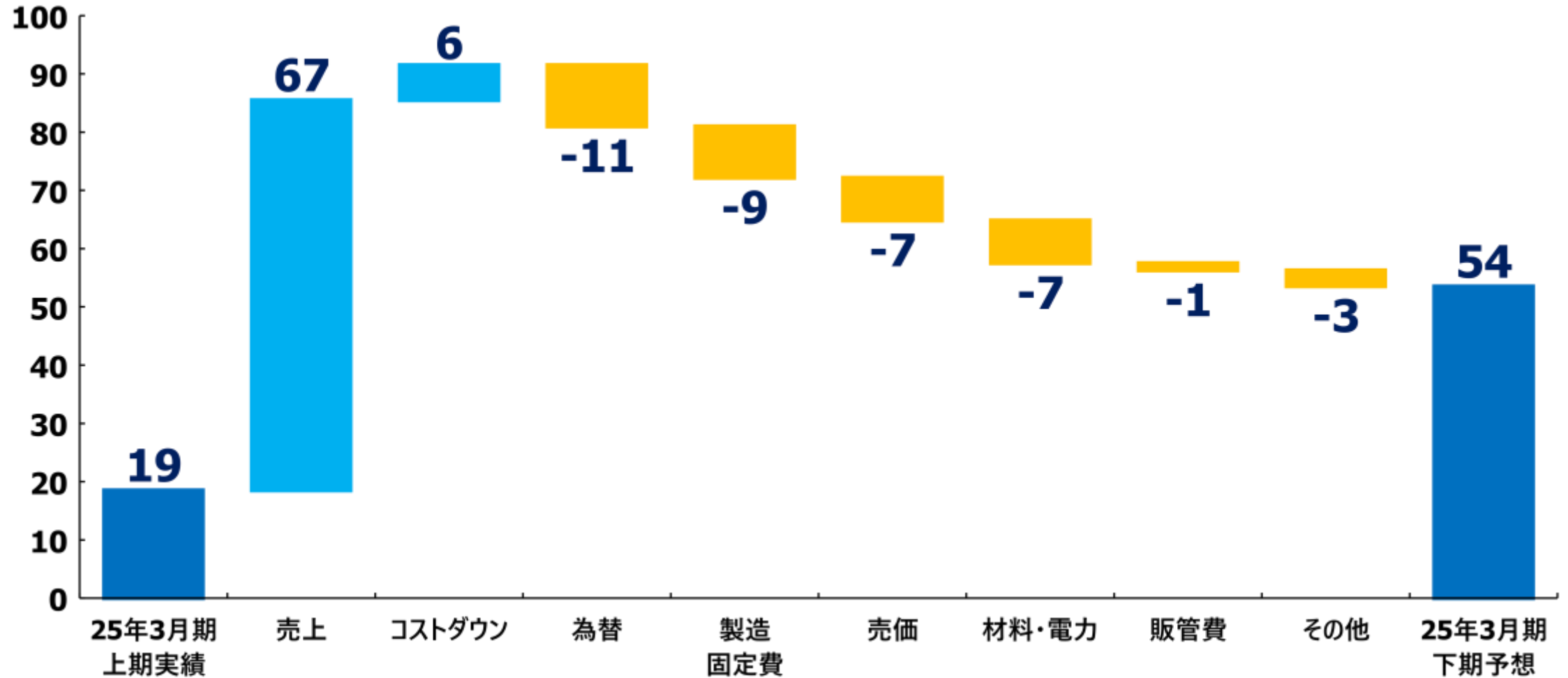
足元の事業環境と主要 3 市場の見通し

	FY24上期	FY24下期	FY25上期	環境見通し
車載				<div>✓ 欧米のEVシフト失速の懸念はあるものの、先進運転支援システム（ADAS）などの電装化は確実に進展しており、1台当たり部品の搭載数は増加傾向</div> <div>✓ 24年度の世界生産台数は、下期から改善の見込み</div>
産機 新IT				<div>✓ 想定より在庫調整に時間を要しており、中国及び欧州で回復が遅れている</div> <div>✓ 足元の受注状況は、25年度の回復を見込んだ発注が出てきている</div>
ICT				<div>✓ 北米のサーバー向けを中心に受注が回復しており、特にAIサーバー向け受注が増加 (消費電力の増加でより大容量のコンデンサの需要が増加傾向)</div> <div>✓ 携帯基地局向けは、インドを含めた新興国向け需要が増加方向</div>

2025年3月期下期予想 営業利益増減内容（上期比）

ICT市場のサーバー需要増と産機市場回復で増収増益の見通し

単位：億円



第10次中期経営計画 成長戦略：ハイブリッドコンデンサ増産体制の確立と新製品開発

ハイブリッドコンデンサ増産体制の確立

■ケミコン東日本 宮城工場

- ・新製造棟竣工（6月末）8月8日に竣工式を開催し10月より生産開始（11月初出荷予定）



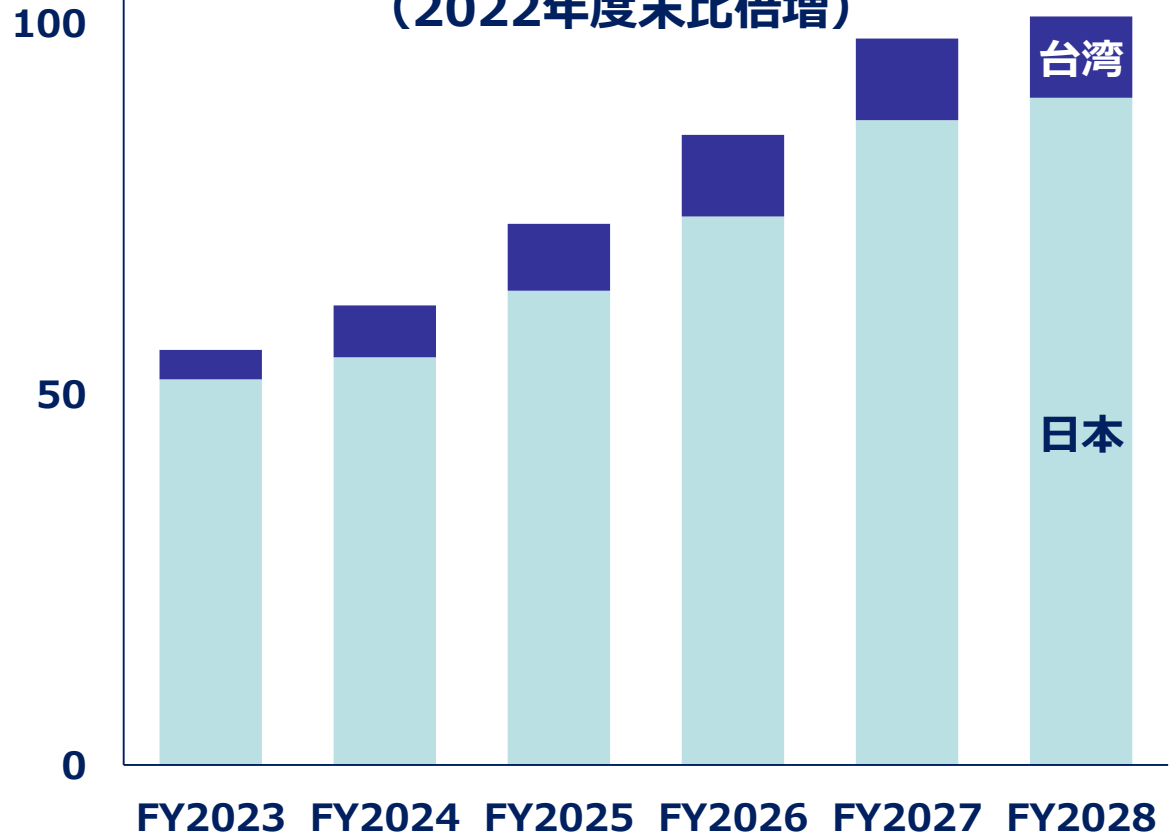
■台湾ケミコン

- ・生産ライン数
2023年4月 → 2024年度上期ライン数倍増

■ハイブリッドコンデンサ増産計画

百万個/月

2028年度月産能力 1 億個計画
(2022年度末比倍増)



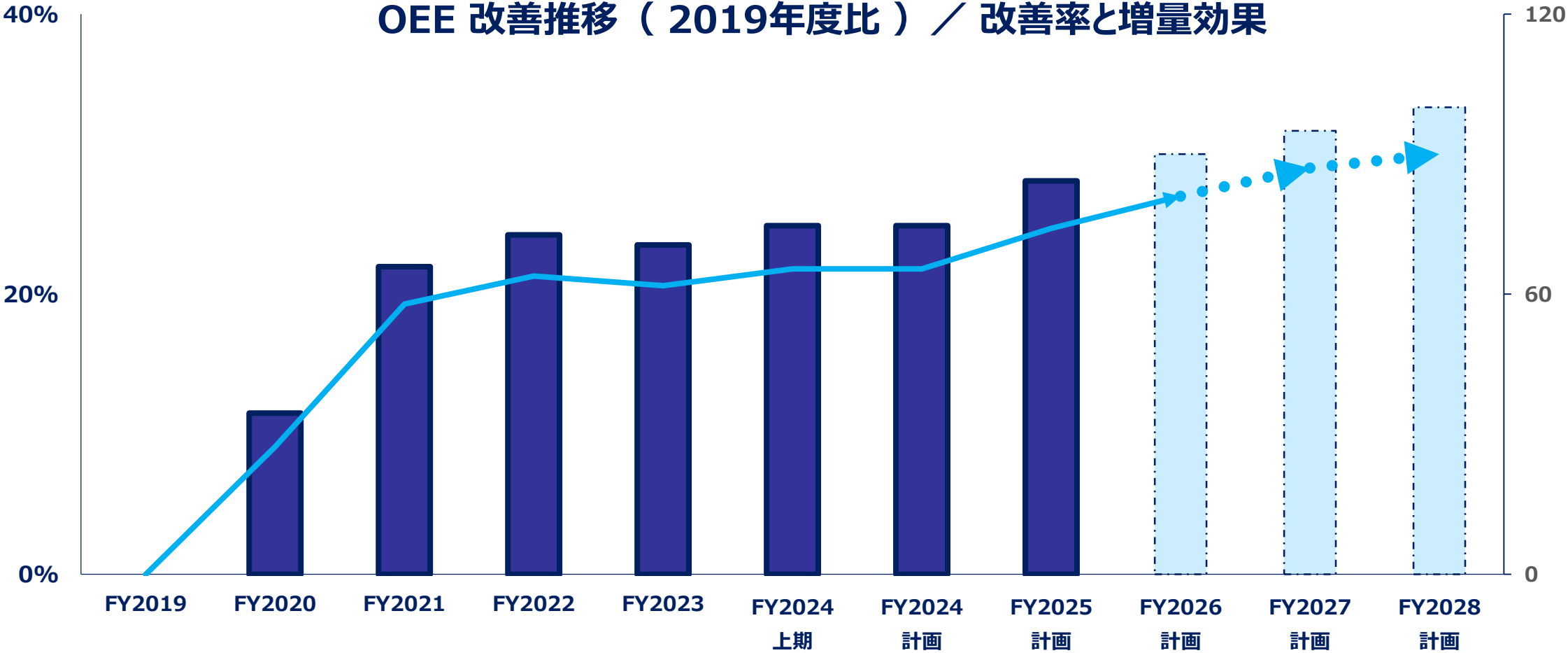
第10次中期経営計画 成長戦略：OEEの向上による増員・増備なき増量対応

OEE 設備総合効率

OEE改善率：%

増量効果：百万個

OEE 改善推移（2019年度比）／改善率と増量効果



第9次中計期間

第10次中計期間

第10次中期経営計画 成長戦略：スマートファクトリー取り組み進捗



第10次中期経営計画 新興地域への販売強化及びBCP対応

Next CHINAへの対応⇒インド市場強化・BCP対応



(中国)

- ✓ 現状、当社売上高の約35～40%が中華圏
- ✓ 当社にとっての最重要地域であり、各種リスク対応は必須
(地政学、環境、経済安全保障、サプライチェーンリスク、人件費高騰 等)

当社の対応

■ 顧客の生産拠点や製造委託先(EMS)の移転に対応した販売網、物流体制の構築

■ 各種リスク（地政学的・経済安全保障など）に対するBCP対応強化



(インド)

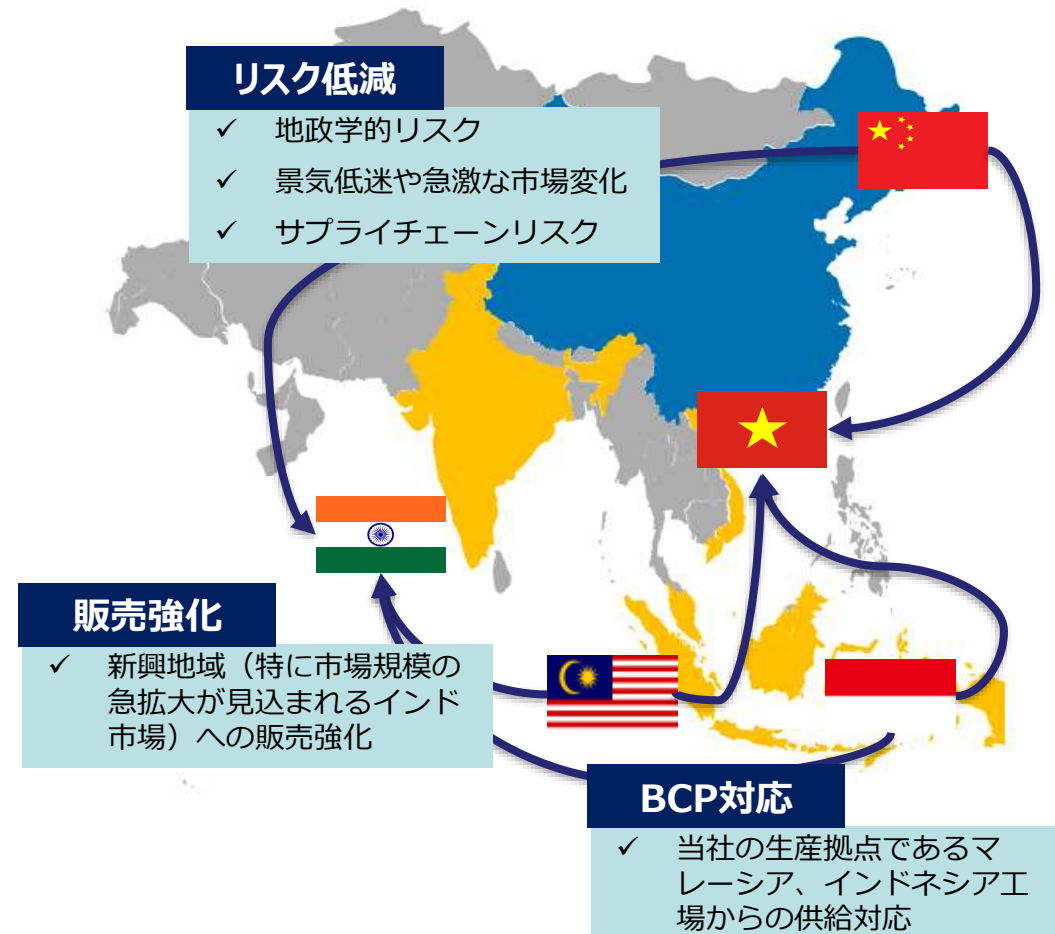
- ✓ インド拠点の設立(ハリヤーナー州グルグラム)により現地での販売サポート体制を構築
- ✓ インド在留の代理店活用、広告展開



(ベトナム)

- ✓ ASEAN/東アジア地区の営業拠点を活用しベトナムへの販売体制を構築
- ✓ 欧米台企業のベトナム進出時に商流を確保

新興国を中心とするグローバルな事業戦略



第10次中期経営計画 成長戦略：新製品開発および新製品利益寄与

第10次中期経営計画に寄与する新製品

データセンター、AIサーバー

5G通信



- ✓ 高出力電源に対応する大容量コンデンサ



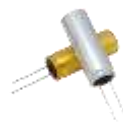
- ✓ ハイパワー携帯基地局向け大容量・高性能ハイブリッド、導電性コンデンサ

車載 ADAS、自動運転

車載 OBC



- ✓ 自動運転用コンピュータ向け高性能ハイブリッドコンデンサ

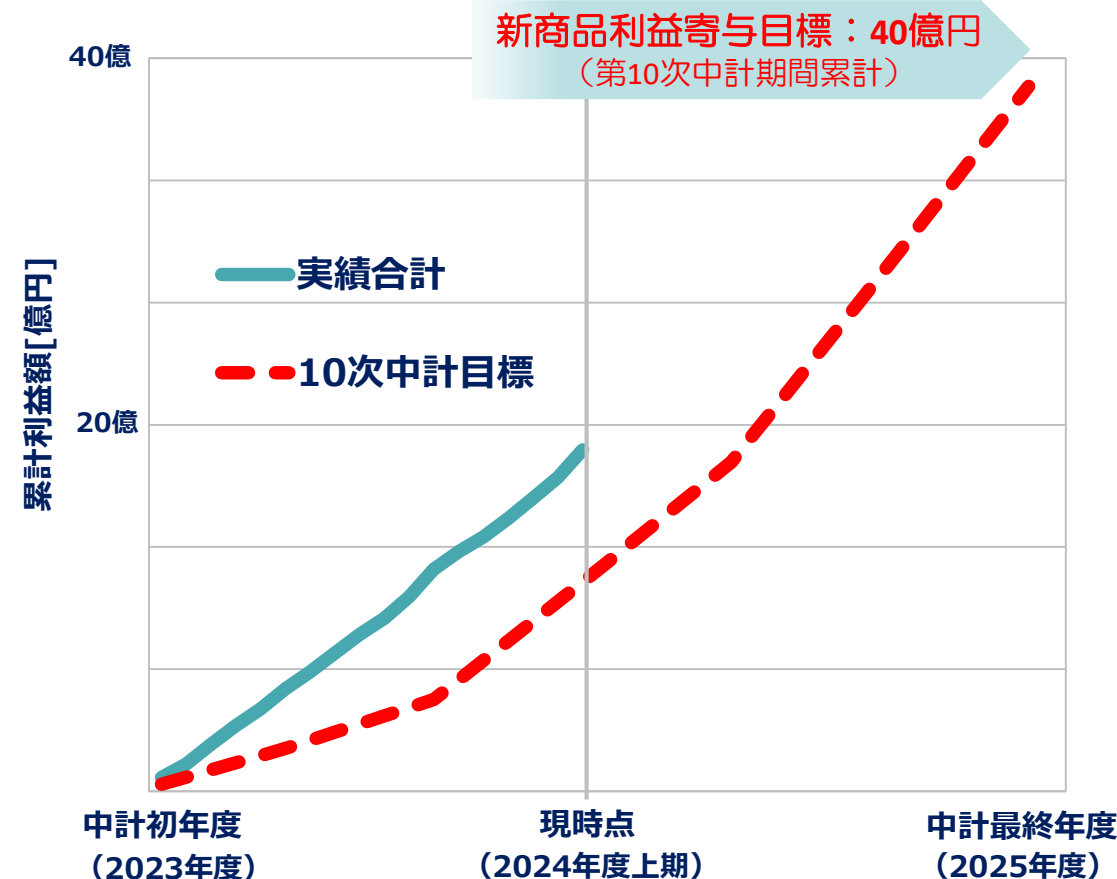


- ✓ スーパーキャパシタを利用した安全装置



- ✓ 装置の小形化に貢献する高電圧・高容量コンデンサ

10次中期経営計画 新商品利益寄与推移



第10次中期経営計画 成長戦略：新製品開発および新製品利益寄与

新陰極箔による収益拡大

- ✓ 独自開発した陰極材料技術
- ✓ 2023年5月より量産適用開始



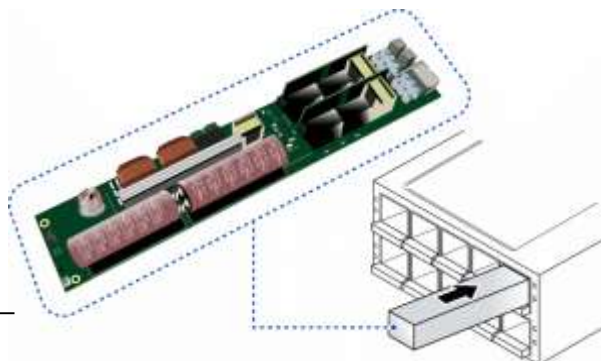
新陰極箔採用による効果

コスト優位・高性能（大容量化）

- ✓ 高性能（小型化、長寿命化）、高信頼製品へ適用可能
（当社エッチング箔の進化で高容量化を実現）
- ✓ 標準工程での量産によるコスト優位性
（従来箔からの原材料費低減）
- ✓ 大容量化が可能な事で、高収益市場であるデータセンタ、生成AI向け製品の上市

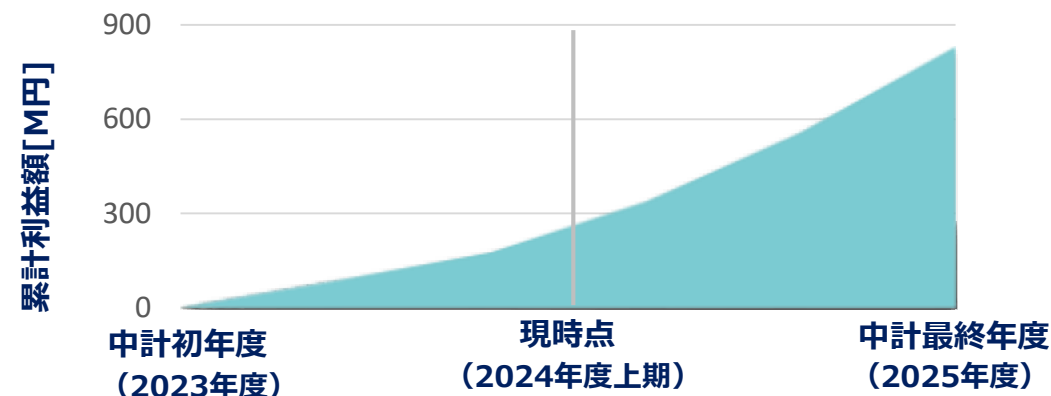


チップ形、基板自立形アルミ電解コンデンサへ採用済み



データセンター用電源と搭載コンデンサ

新陰極箔採用製品による利益寄与



■ 今後、新陰極箔を当社のアルミ電解コンデンサ（ハイブリッドコンデンサ等）に多く採用することで更なる収益力強化を図る

Appendix

2025年3月期第2四半期 製品別売上高（前年同期比）

ハイブリッドコンデンサとICT市場向け導電性製品、コンデンサ材料以外の製品の減収幅が大きかった

単位：百万円	24年3月期上期実績	24年3月期下期実績	25年3月期上期実績	前年比増減	前年比増減率
アルミ電解	71,205	61,292	51,717	-19,487	-27.4%
内 導電性	10,610	10,621	9,943	-667	-6.3%
DLCAP™	2,656	2,538	1,921	-735	-27.7%
セラコン・バリスタ	1,773	1,616	1,260	-513	-28.9%
機構その他部品	1,872	1,628	1,712	-159	-8.5%
コンデンサ材料	2,141	2,474	2,750	+609	+28.4%
その他	692	848	553	-139	-20.1%
合計	80,341	70,398	59,914	-20,426	-25.4%

2025年3月期通期 製品別売上予想

産機、車載市場の回復とICT市場（データセンター向けサーバー需要）のさらなる伸長により増収へ

単位：百万円	24年3月期 上期実績	24年3月期 下期実績	24年3月期 通期実績	25年3月期 上期実績	25年3月期 下期予想	上期比 増減率	25年3月期 通期実績予想
アルミ電解	71,205	61,292	132,497	51,717	64,783	+25.3%	116,500
内 導電性	10,610	10,621	21,231	9,943	10,857	+9.2%	20,800
DLCAP™	2,656	2,538	5,195	1,921	1,779	-7.4%	3,700
セラコン・バリスタ	1,773	1,616	3,389	1,260	1,240	-1.6%	2,500
機構その他部品	1,872	1,628	3,500	1,712	1,688	-1.4%	3,400
コンデンサ材料	2,141	2,474	4,615	2,750	3,050	+10.9%	5,800
その他	692	848	1,541	553	547	-1.1%	1,100
合計	80,341	70,398	150,740	59,914	73,086	+22.0%	133,000

今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

〔注意事項〕

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測につきましては、本資料作成時点において入手可能な情報により当社が合理的に判断した予想であり、実際の業績は、今後、様々な要因により変動する場合があることをご承知おき下さい。

また、本資料に記載されている将来予想に関する事項についてその内容を更新し、公表する責任を負いませんのでご了承願います。

投資に関する最終決定につきましては、投資家の皆様ご自身の判断で行われますようお願い致します。

本資料の内容に基づいて投資された結果、万一、何らかの損害を被られましても、当社及び各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承願います。